

## 宮城県災害時小児周産期リエゾン研究会について

## 1 目的・ねらい

各地域の周産期医療機関が、災害時に備えるため災害時小児周産期リエゾンの活動を理解するとともに、各立場から意見交換等を行い、地域の実情を踏まえた災害時小児周産期リエゾンの在り方の検討に資するための研究会とする。

## 2 主催 宮城県（直営）

## 3 実施計画（案）

年度	内容
H 3 0 年度	～啓発・検討～ 周産期医療関係者に災害時小児周産期リエゾンの業務内容等を周知するとともに、県内の周産期医療体制を踏まえた小児周産期の災害医療体制についてフィードバックを受ける（意見交換 or アンケート）。
H 3 1 年度	～県内ルールの作成～ 国が定める災害時小児周産期リエゾン実施要領を参考に、県内における小児周産期の災害医療体制の検討を行い、宮城県災害時小児周産期リエゾン実施要領等の制定を目指す。
H 3 2 年度	～体制整備～ 宮城県災害時小児周産期リエゾン実施要領の周知、必要に応じて補足等を行う。

## 4 日時・場所

平成31年3月17日（日）午後1時から午後3時まで（予定）

県行政庁舎1階 みやぎ広報室

## 5 参集範囲

各周産期母子医療センターの産科・小児科・助産師各1人 計30人程度（最大50人）

## 6 内容と講師（予定）

- (1) 災害医療の概要及び宮城県の災害医療体制  
宮城県保健福祉部医療政策課技術補佐 野上 慶彦
- (2) 災害時小児周産期リエゾンの概要  
あいち小児保健医療総合センター救急科医長 伊藤 友弥
- (3) 災害時小児周産期リエゾン活動の実際と産婦人科災害対応システム  
東北大学東北メディカル・メガバンク機構教授 菅原 準一
- (4) 質疑応答等

## 7 参考

現在、国（厚生労働省）の救急・災害医療提供体制等の在り方に関する検討会において、災害医療コーディネーターの在り方等と併せて、災害時小児周産期リエゾン活動要領の制定等も議論されており、こうした国の動きも見据えつつ、地域（県）における災害時の小児周産期医療体制の検討を進めて参ります。

## 参考) 災害小児周産期リエゾン養成状況

No	養成年度	氏名	所属	職種
1	H28	村田 祐二	仙台市立病院	小児科・新生児科医師
2	H28	菅原 準一	東北大学 東北メディカル・メガバンク機構	産婦人科医師
3	H29	埴田 卓志	東北大学病院	小児科・新生児科医師
4	H29	星合 哲郎	東北大学病院	産婦人科医師
5	H30	竹中 尚美	東北大学病院	産婦人科医師
6	H30 (予定)	菅原 典子	東北大学病院	小児科・新生児科医師

※ほか、平成30年度は行政職として島津陽介主事が参加。